

海外トピックス

オーストラリア・クイーンズランド州の
高等教育進学と進路選択過程

東洋英和女学院大学人間科学部 佐藤 智美
大学入試センター研究開発部 山村 滋

1. はじめに

情報や技術の変化の速い現代社会では、多くの国で、後期中等教育や高等教育への進学者が増加し、平均的教育年数は長くなりつつある。職業社会に出てからの失業のリスクや不利益を回避するために、若者が後期中等教育を修了しようとする傾向が強まっている¹⁾。OECDによると、オーストラリアでは生涯のどこかで大学に行く者の割合が60%を超えているが、15歳から19歳の若者の後期中等教育就学者割合は2004年に78.4%であり、OECD各国平均の82.8%をやや下回る²⁾。このような現状に対して、また子どもたちが変化の早い現代社会に適応し知識や技術の習得に努めることができるよう、オーストラリアのクイーンズランド州では、義務教育終了後も学校教育または職業訓練に参加することを義務づけている。クイーンズランド州では、2000年に68%であった中等教育修了率を2010年までに88%に引き上げるという目標が立てられており、その目指すところはでき

るだけ多くの生徒に12年間の学習あるいはそれに相当する技術・技能を習得してほしいということにある³⁾。ここでは、クイーンズランド州の中等教育後の進路選択に関する実情を見てみたい。

2. クイーンズランド州の中等教育と進路選択

オーストラリア大陸の北東に位置するクイーンズランド州は面積においては西オーストラリア州について2番目に大きく、人口は2007年6月現在で4,182,100人である。州都のブリスベンには、人口の46%ほどが住んでいるが、これは他の州では州都に人口の過半数が住んでいることに比べると少ないほうである⁴⁾。クイーンズランド州では、1,250の学校と36,000人以上の教職員と480,000人の児童・生徒に対して、教育・訓練・芸術省 (Department of Education, Training and the Arts) が責任を負っている⁵⁾。クイーンズランド州政府の法定の1部局であるクイ

ンズランド学習局 (Queensland Studies Authority : QSA) がクイーンズランド州の学校に対して、就学前教育から12年生までのシラバス、評価、成績の通知、テスト、認可、修了証書の発行業務などを行っている⁶⁾。州の学校は無償であるが、多くの学校では保護者が子どもたちの文房具や制服については用意することになっている⁷⁾。学校は通常1月末に始まり、12月中旬に終わる。

中等教育は、7年間の初等教育の後、8年生から始まり12年生までであるが、クイーンズランド州の法律によって、10年生が終わるまで、あるいは16歳になるまでが義務教育となっている。しかしながら、さらなる学習あるいは収入を得ることに参加することが義務となっている。これをクイーンズランド州では、Learning or Earningと呼んでいる⁸⁾。すなわち、法律によって2006年に10年生になった生徒からは以下のような形で教育や職業訓練に参加しなければならない⁹⁾。

●10年生修了後さらに2年間または

●クイーンズランド中等教育修了証書 (Queensland Certificate of Education : QCE) を得るまで

または

●職業資格証明書 (Certificate III) を得るまで

または

●17歳になるまで

クイーンズランド中等教育修了証書とは2008年から従来の上級修了証書 (Senior Certificate) に代わって導入された修了証書であり、2008年に12学年を修了する生徒がこの修了証書を受けとる最初の生徒となる¹⁰⁾。QCEは、生徒にとってはさらなる教育、あるいは職業訓練のどちらかに進むための基礎を作り、将来の雇い主に対しては生徒の能力の範囲を知らしめるものでもある。多くの生徒は12学年の終わりにQCEを受け取るが、QCEを取得する条件を満たさない生徒は、QCE取得に向けた学習を継続することができる¹¹⁾。

ところで、クイーンズランド州では、10年生になると教師や親の援助のもとにSETプラン (Senior Education and Training Plan) を作成する¹²⁾。SETプランとは11、12年生の学習のための個々の学習進路を精密に計画するものである。10年生という時期は子どもの人生の中でも重要な節目の時期と考えられており、新しいタイプの学習を経験し自分の学習により重い責任を負うことになる11、12年生の前段階である。そして、この時期に将来のキャリアについてよく考え、目標を設定し、その望みを実現する計画を立てる。このプランは中等教育の11、12年生段階にお

ける学習の選択肢やキャリアや教育上の目標を描くものであり、生徒が11、12年生の段階でうまく学習が進められるように、学校と親と生徒と一緒に考えるという過程を通して作り上げられる¹³⁾。SETプランによって、生徒はQCE、あるいはそれと同等の資格の取得に向けて計画を立てることが出来る。このプロセスの中で、生徒は自分自身について知り、実現可能な目標を立て、どのようにしてその目標に到達できるかを探索することができる。生徒が自分の将来について責任を負うようになる重要な方法となっている。SETプランは生徒が通っている学校によって、様々な形式やサイズである。クイーンズランド学習局はSETプランのためのガイドを作っており、学校はそのガイドを利用して、その地域の事情に合わせて形式を作っている¹⁴⁾。

10年生あるいは16歳の誕生日を迎える前に、すべての生徒はクイーンズランド学習局に登録される。登録されると、各生徒は学習アカウントを開いてもらうことができ、それ以後、様々な学習や訓練を修了すると、自分のアカウントで学習の進捗や取得した単位数を見ることができる。このような学習到達の内容はQCE上に記録され、将来の雇用主はその生徒についてのおおよそのことが分か

るようになっている¹⁵⁾。

さらに、クイーンズランド州では、毎年、学習局が12年生を対象としたクイーンズランド・コア・スキルズ・テスト (Queensland Core Skills(QCS) Test) と呼ばれる州共通のテストを実施している。このテストは知能テストではなく、中等教育の上級学年のカリキュラムに基づいた学力テストである¹⁶⁾。テストの結果はAからEの5段階評価で示され、生徒の上級学年報告書 (Senior Statement)、あるいは結果の報告書 (Statement of Result) に記録される。テストは1年に1回2日間に渡って実施される。テストで出される問題は標準的なオーストラリア英語での基礎的レベルの一般知識や語彙、そして10年生の数学力に相当する。クイーンズランド学習局自体はテスト準備にかかわることはないが、準備用の過去問題などを用意している。多くの中等学校は独自にテストに焦点を絞った準備や練習を行っている¹⁷⁾。

3. 高等教育進学

クイーンズランド州では、生徒はまずOP (Overall Positions) を得ることによって、高等教育進学への道が開かれる。OPとは、生徒の学習局科目 (Authority Subjects : 高等教育志願のために認められている科目) の全体的

な成績に基づいたクイーンズランド州独自のランクであり、他のすべての生徒と比較してその生徒の相対的位置を示すものである。OPを得るためには、学習局科目の20学期分の単位を修得しなければならない¹⁸⁾。こうしてOPの資格のある生徒は1(最高)から25(最低)まで25のOPに区分される¹⁹⁾。また、FP(Field Positions)はOPの資格がある場合にのみ算出される²⁰⁾。FPはOPを補強するもう一つのランクであり、fieldを表すFは中等教育カリキュラムで重視される領域を示している。FPはあるOP区分に属する生徒たちを差別化しなければならないような、例えば、コースの定員を超えて志願者があるような場合に、高等教育機関が使用する。FPは選択した学習局科目によって五つの領域まで計算され、1(最高)から10(最低)の10区分にランクづけされる²¹⁾。OPとFPは大学進学のために生徒をランク付けするのに使われるのである。さらに、高等教育進学希望者は前述のQCSテストを受験する必要がある。生徒は希望する高等教育機関のうちで自分が入学科目要件(prerequisite)を満たしているコースを選ぶ。入学科目要件を満たしている生徒は、まずそのOPに基づいて選抜される。次いで、必要に応じてFPが

選抜に用いられる。OPやFPは、クイーンズランド学習局が算出の責任を負っており、学習局は計算に必要な生徒の成績情報が正しいか、また正確な情報がOPの計算に使われているかを生徒の学校の校長に確認する。

クイーンズランド州における大学入学志願はクイーンズランド高等教育入学志願センター(Queensland Tertiary Admissions Centre: QTAC)を通して行い、入学者の選抜もQTACが各高等教育機関の入学条件に照らし合わせて行うことになっている。QTACの役割は集中方式化した高等教育入学システムを提供し、将来の志願者に対して包括的な情報を出すことである。QTACは1990年に、当時クイーンズランド州にあった六つの州立大学によって設立された非営利の公的機関であり、現在は18の機関への志願書を処理している。QTACに参加している教育機関はその入学要件や選抜基準の決定は独自に行っている。それらが決定されると、QTACの役割の一つは入学規則やそれに関連した手続きが正しく履行されるようにすることである。QTACを通して志願するには、志願者はオンラインで行うが、六つのコースまで志願できる²²⁾。

さて、ここで、クイーンズランド州の中等学校でどのように進路選択、進路指導が行われているかをファーニー

グローブ中等学校(Ferny Grove State High School)を事例として見てみよう。

4. ファーニーグローブ中等学校

ファーニーグローブ中等学校はブリスベン・セントラル駅から電車で30分ほどのところにあるファーニーグローブという駅で下車し、徒歩で十数分の閑静な住宅地の中にある。男女共学で8年生から12年生までの生徒が近隣から通学している。一般にオーストラリアの中等学校は生徒数が800~1,000名とのことであるが、ファーニーグローブ中等学校は1980年に設立されて以来、生徒数が増加し、現在8年生から12年生までの全校生徒数が約1,650名という規模の大きい学校である²³⁾。学校は静かな環境の中に広い運動場や農場を持ち、生徒は目標を高く持つことが奨励され、勉強だけでなくその他の様々な活動に励んでいる。学校内には牧師もオフィスを持ち、生徒、家族、教職員の相談にのったり、地域との良好な関係を築くための援助をしているとのことである。この学校は高等教育への進学者の多い学校の一つであるが、通学区域が決まっており、生徒は自由に学校を選択しているわけではない。入学するに当たっては、入学願書などの必要書類に記入し、それを持って生徒は15分ほどのインタビューを受

ける。必要書類は学校から取り寄せ、インタビューの日時は前もって予約する²⁴⁾。新しく中等学校に入ってくる生徒が、初等から中等学校への移行をしやすいように年度の終わりにオリエンテーション日が設けられている。この日に、次年度入学してくる生徒は短い授業を体験したり、上級生のリーダーに会ったりして、中等学校生活に慣れるための機会が設けられている²⁵⁾。

学校は月曜日から金曜日までの週5日であるが、8年生から11年生までは毎日70分の授業が4コマある。授業は月曜日、水曜日、金曜日は午前8時45分に始まり、火曜日と木曜日は午前9時10分に始まり、終わりは午後3時5分である。ただし、水曜日だけは学校間のスポーツ交流などが予定されているため午後2時40分に終了する。12年生になると、時間割はやや異なってくる。授業は週4日で、70分授業が5コマある日が3日あり、あとの1日は70分授業が4コマである。授業は火曜日、木曜日、金曜日は午前8時に始まり、月曜日は午前8時45分に始まる。終了はどの曜日も午後3時5分である²⁶⁾。ところで12年生は水曜日は学校での授業はない。12年生は毎週水曜日を柔軟に使い、学校を基礎とした職業訓練や見習い訓練、職業経験、課外活動にでかけたりする。個別に学習することもできる。我々が学校を訪問した

日はたまたま水曜日であったので、学校内で12年生を見かけることはなかった。

5. ファーニーグローブ中等学校のカリキュラム

カリキュラムについては、まず8年生はクイーンズランド州が定めている八つの鍵となる学習領域を中心に学習する。八つの鍵となる学習領域とは、英語、健康と体育、英語以外の言語（ドイツ語とインドネシア語）、数学、理科、社会科と環境、技術、芸術である。英語以外の言語は、ファーニーグローブ中等学校では、ドイツ語かインドネシア語のどちらかを選択する。9年生になると、生徒は芸術（美術、ドラマ、音楽、グラフィックスの中から）、技術（ビジネス、工芸、食物技術、織物、農業の中から）、英語以外の言語（ドイツ語かインドネシア語）の3領域からどれか四つの科目を選ぶことができる。10年生は1年間にわたって履修する2科目を選択することになるが、これら選択科目については、11、12年生時にどのような科目を履修するのかを考慮して選択することが必要である。11年生と12年生はまず数学と英語を学習し、さらに6科目かそれに相当する内容を学習しなければならない²⁷⁾。特に12年生には、大学の授業に参加する機会も与えられている。

ところで、ファーニーグローブ中等学校では、ドイツ語のイマージョン教育が行われている。このイマージョン教育を受けるためには、学校の言語科の主任に申し込み、カリキュラム全体の半分がドイツ人教師によって授業が行われる。このイマージョン・プログラムは生徒にとって知的な挑戦であり、自分たちを取りまく世界に対してより理解を深めることができる。このプログラムは8、9、10年生に向けて開かれ、さらに上級ドイツ語や大学レベルの学習に進むこともある。ファーニーグローブ中等学校で11、12年生が選択することができる学習局科目は会計、数学A、B、C、グラフィックス、ドラマをはじめ31科目あり、学習局登録科目（Registered Subjects）は視覚芸術、ビジネス、ホスピタリティ実践、職業準備数学等々9科目がある²⁸⁾。

これらのような個々の学校が提供している科目に加え、クイーンズランド州では学校を基礎とした見習いや訓練実習がある。ファーニーグローブ中等学校においても、職業教育コーディネーターが、10年生から働くことを通して実社会を知る経験を得る手助けをしている。コーディネーターの仕事は近年ますます重要になってきており、生徒が学校で学びながら見習いや訓練実習、職業経験の機会を得ることに貢献している。職業教育コーディネーター

は見習いや訓練実習期間中生徒の進捗状況を観察し、雇用主と連絡を取り、生徒が計画した資格を取得できるように支援する。この学校では、コーディネーターは現在のところ、週に3回勤務のパートタイムであったが、生徒たちの職業経験の評判はよく、多くの上級学年の生徒がなんらかの仕事とかかわっている。このような見習いや訓練実習では、生徒に報酬が支払われるため、ちょっとしたお小遣い稼ぎとしても好評である。校長の話によると、大学へ進学する生徒たちにもこのような見習いや実習を通した職業経験は人気があり、自分の希望する将来の職業とかかわりのある環境に身をおくことによって、そこで使用される言語や雰囲気をはじめ学ぶものは多いという。したがって、近年では、大学進学希望者の中にも見習いや実習に行く生徒が増えている。一般に生徒たちは多くの場合、10年生までにはパートタイムの仕事を見つけ、働いているという。週に8時間までは働くことができるのである。

6. ファーニーグローブ中等学校のSETプラン作成過程

さて、10年生になると、各生徒はSETプランを作成しなければならない。SETプランは、先にも述べたとおり、生徒が将来の進路を考え、社会と

の接続をもつために11年生や12年生で何を学び、何を経験するかを計画するものである。そのため、ファーニーグローブ中等学校では、10年生は前期に週1コマのキャリア教育プログラムに参加する。その過程で生徒はガイダンス・オフィサーあるいは熟練の教師と面談する。生徒の親もSETプランの作成やその過程の面談には積極的に関わるように期待されている。ファーニーグローブ中等学校では、2人の常勤のガイダンス・オフィサーが生徒の教育上、職業上のガイダンスに関わっていた。通常、学校にガイダンス・オフィサーを何人、どのような就労形態で置くかを決定するのは校長である。キャリア・ガイダンスでは、キャリア教育プログラム、職業経験、図書館、コンピュータによる情報を通して、教科、キャリア、職業世界について最新の情報を提供している。

ファーニーグローブ中等学校では、10年生の生徒に『キャリア』というタイトルの70ページほどのワーク・ブックが配られ、10週間にわたってこのワーク・ブックの内容に答えていく。ワーク・ブックは大きく、1) 私はだれ? (第1-2週)、2) 決定 (第3-5週)、3) 進路の探求 (第6-8週)、4) 自身を表現する (第9-10週) の4つのユニットに分かれ、それぞれのユニットはさらにテーマによって細分

化されている²⁹⁾。まず、「私はだれ？」では、自分自身を知ることから始まり、自分の将来や夢、パーソナリティ、技能、能力を質問や記述形式の問いに答えるように構成されている³⁰⁾。「決定」に進むと、決定に至るまでの重要な7ステップの簡略な説明から始まり、ある1人の10年生の決定例について質問に答えることによって、決定にいたるプロセスを学ぶようになっている。そして、この「決定」のユニットは自分自身についてや今後の目標を記入することによって仕上げられる³¹⁾。続く「進路の探求」ユニットでは、自分の興味・関心を尺度を使って知ることから始まり、働く上で必要になるような技能について知り、さらには上級学年でどのように科目を選択するかが説明され、大学進学に当たって知っておかなければならない手順や選抜方法について詳細な説明がなされている。さらに、クイーンズランド中等教育修了証書についての説明やその取得方法についての説明が分かりやすい形でなされている。このユニットの最後には生徒がキャリア計画をするに当たって役立つと思われるインターネット・サイト情報が2ページにわたって記載されている³²⁾。最後に「自身を表現する」ユニットでは、自分自身をアピールすることや履歴書を書いたりすること、就

職時の面接の心得を学ぶ³³⁾。このようなワーク・ブックに丁寧に答えていくことによって、生徒は自分自身について理解を深め、将来の目標を定め、社会への移行を準備し始めるのである。

7. クイーンズランド州の職業ガイド

生徒がこのワーク・ブックに答えるにしても、将来つきたい職業を念頭に置きSETプランを作成するにしても、10年生の生徒がどのくらい実社会にある多種多様な職業について知っているのだろうか。この点に関して、ファーニーグローブ中等学校の校長によれば、連邦政府が生徒に無料で配布している480ページほどの『ジョブ・ガイド』のクイーンズランド版が有益である³⁴⁾。このガイドは職業を選ぶまでのプロセスや履歴書の書き方や面接について詳細に説明されているだけでなく、あらゆる職業について、仕事の内容、必要な教育や訓練・教育機関名、どのように雇用されるか、問い合わせ先などを網羅している。また、もう一つ連邦政府から配布されるガイドに『的のキャリア情報 好きな科目とその科目と結びつく仕事』がある³⁵⁾。これは科目ごとに「あなたはその科目が楽しいですか、あるいは得意ですか」と大きく見出しがかかれ、「以下の職業を考えてみましたか」と小見出しが続いている。

そして、そのページいっぱいに的のような4重の円が描かれており、内側の円から外側の円に向かってレベル1からレベル4になっている。レベルの数字が大きくなるほど高い教育レベルが必要になる職業がそこに記されている。例えば、数学について見てみると、「数学が楽しいですか、あるいは得意ですか」とそのページの見出しは語りかけ、レベル1の円のところを見ると、チケット売りや郵便局員をはじめ数多くの職業が記されている。レベル2には飛行機整備士や電気技師などその他多数であり、レベル3では、会計士や農業技術師等々で、レベル4では、工業技師や数学者等多くの職業がある³⁶⁾。このような職業との接続が30ページ、すなわち30科目について4重円のレベルで示して描かれている。レベル1に記されている職業は10年生修了、後期中等教育修了証書(Senior Secondary Certificate of Education)、職業資格ⅠあるいはⅡの教育レベルで就くことができるものであり、レベル2の職業は職業資格ⅢあるいはⅣ、または少なくとも3年の経験が必要な職業である。レベル3はディプロマあるいは上級ディプロマが必要とされるためTAFE(Technical and Further Education)などで学ぶことになり、レベル4は学士あるいはそれ以上の学位が必要となるため、大学で学ぶことに

なる。ファーニーグローブ中等学校のガイダンス・オフィサーによれば、このようなガイドも生徒の将来を設計する上で、ヒントを与えてくれる資源となっている。

8. 大学進学

将来希望する職業によっては、大学へ進学することが必要になるものもある。となれば、生徒はその職業に結びつくコースやそのコースに入学するための必要条件についても知っておかなければならない。コースによっては11、12年生段階で履修しておかなければならない科目を明確にしているからである。つまり、10年生の段階で3年後に入学する大学のコースの要件を満たすようにSETプランを設計し、科目を選択しておかなければならない。ファーニーグローブ中等学校では、先の2人のガイダンス・オフィサーが科目選択について親身に相談に乗ってくれる。2008年に10年生である生徒にとって、3年後の大学進学のための重要な情報源の一つであるのが、QTACから無料で配布される『高等教育必須要件QTAC 2011』という冊子である³⁷⁾。これをみると、全体が三つのセクションに分かれており、まずセクション1では、大学で学ぶために知っておかなければならないことが記されている。その中には、QTACへの志願の仕方や

入学者選抜方法、そのために算出されるOPやFPについても説明されている。セクション2は生徒自身が最も関心のある領域やキャリアとして従事してみたい領域について簡略に説明されている。最後にセクション3では、生徒の関心のある領域に関連した大学におけるコースが教育機関別に書かれており、それを見れば、進学したいコースの科目要件などが明らかになる。このように、現10年生向けにQTACから配布される3年後を見据えた冊子本も重要な情報源の一つとなっている。

9. ファーニーグローブ中等学校でのQCSテスト準備

最後に、ファーニーグローブ中等学校では、QCSテストのためにどのような準備がなされているかについて見てみよう。このテストは先にも述べたように、2日間にわたって各学校で実施される。生徒にとってはこのような集中的なテストは初めての経験であるため、ファーニーグローブでは、毎週金曜日の午前中の1コマをその練習にあてている。生徒によっては、緊張したり神経質になったりすることもあるため、テストのための準備は必要とされている。実際のテスト日が近づくと、本番さながらにテストを受ける練習をするとのことであった。校長によると、ここまで準備している学校はそれほど

多くはないとのことであったが、現在のところはテストに十分備える方針をとっており、またテストの成果も向上したとのことであった。

10. おわりに

クイーンズランド州の調査から、2007年に12年生を卒業した者の約半年後の進路を見てみると、大学へ進学した者が34.4%、職業資格を目指して訓練を受けている者が26.2%で、合計60.6%の者が何らかの学習か訓練を継続している。また、フルタイムでの就労が17.4%、パートタイムでの就労が14.7%で、仕事を探している者と学習にも仕事にも関わっていない者がそれぞれ5.8%、1.5%である³⁸⁾。このような12年生卒業後の進路の本格的な基礎は中等学校教育の後半に計画的に形づくられる。大学進学は確かに最も多い進路であるが、それは中等教育の最終目標ではなく、キャリア形成のための選択肢の一つである。クイーンズランド州の中等教育は子どもたちに職業を中心とした人生の生き方を考えさせ、計画させるために、特に10年生から12年生段階では学校内外の人々の協力を得て、時間が有効に使われている。子どもたちを「自分は何が好きなのか」「何が得意なのか」「何に興味があるのか」等々の問いに直面させ考えさせ、実社会に参加しつつそれらの問いに答

えていく。その際には、親をはじめ、教師、ガイダンス・オフィサー、職業人からの協力と助言が子どもたちを支えている。特に企業や職業人からの協力はその種類や数も多く、子どもたちにとって選択肢は豊富である。選択肢が適切でなかったり、不向きであると判断されたならば方向を転換すればよい。それを人生の中のどこでも可能にする基礎を中等教育段階で形成する。その証に、先にも述べたように、オーストラリアでは生涯のどこかで大学に進む者の割合が60%を超えている。

翻って日本では果たしてどうであろうか。中等教育の目的が高等教育受験に偏ってはいないだろうか。進学率の上昇とともに学校で行われる進路指導は内容的に卒業後の進学指導に傾斜し、あるいは職業高校であれば就職斡旋に重点が置かれているといえる。これは、家庭においてもおそらく同様で、親の関心は子どもの職業も含めた人生の生き方というよりも、主として目の前にある受験や就職にある。日本の子どもたちは自分の人生やその生き方について大した準備もなく、無防備な状態で社会の中に入らざるを得ない。近年になって、ニートやフリーターの大量出現にあわて、子どもたちに自分のキャリアについて考えさせ、情報を提供し何らかの準備をさせることが必要であるとの指摘の声が聞かれる。確か

に、そのような若者たちに対する支援や対策は必要である。しかしながら、そのような若者が出現したからキャリアに関する教育が必要であると考えるのは偏狭である。それだけではなく、すべての子どもたちに自身の人生や生き方を考える時間と情報を提供し、社会の中で自立した成人として生活を送ることができるよう、できれば早い段階からそのような場を与えることが必要である。さらに、選択の方向の変更を許容し、新しい選択肢の実現を可能にする柔軟な教育の場とチャンスが提供されなければならない。

制度の面からも学校現場においてもクイーンズランド州の取り組みとそこに傾けられる大人たちの支援と協力について触れたことは、中等教育段階で何をすべきか、子どもたちに何を提供できるか、ひいては教育の目的とは何かを改めて考えさせられる好機であった。

参考文献

- 1) 経済協力開発機構 (OECD) (2006)『図表でみる教育－OECDインディケーター2006年版－』明石書店、274ページ。
- 2) 同上書、335-336ページ。
- 3) The State of Queensland (2002) *Queensland the Smart State Education and Training:Reforms for*

- the Future*, The State of Queensland, p. 6.
- 4) Wikipedia, <http://en.wikipedia.org/wiki/Queensland>
2008年4月15日取得.
- 5) Education Queensland (n.d.) *Shaping the Smart State: a guide to state schools*, Education Queensland, p. 2.
- 6) Queensland Studies Authority, <http://www.qsa.edu.au/about/603.html>
2008年6月10日取得.
- 7) Education Queensland, *op. cit.*, p. 10.
- 8) *Ibid.*, p. 14.
- 9) *Ibid.*
- 10) *Ibid.*, p. 43.
- 11) Queensland Studies Authority, <http://www.qsa.qld.edu.au/certificates/3167.html>
2008年6月16日取得.
- 12) Education Queensland, *op. cit.*, p. 14.
- 13) Queensland Studies Authority (n.d.) *A Guide for Young People*, Queensland Studies Authority, p.4.
- 14) Department of Education, Training and the Arts, *See the Future*, <http://education.qld.gov.au/etr/senior.html>
2008年7月1日取得.
- 15) Queensland Studies Authority, <http://www.qsa.qld.edu.au/certificates/3169.html>
2008年6月17日取得.
- 16) Education Queensland, *op. cit.*, p. 42.
- 17) Queensland Studies Authority, <http://www.qsa.qld.edu.au/assessment/2318.html>
2008年6月16日取得.
- 18) Education Queensland, *op. cit.*, p. 42.
- 19) Queensland Studies Authority (n.d.) *Preparing for the Senior Phase of Learning: What next*, Queensland Studies Authority, p. 2.
- 20) Education Queensland, *op. cit.*, p. 42.
- 21) Queensland Studies Authority (n.d.) *Preparing for the Senior Phase of Learning: What next*, Queensland Studies Authority, p. 2.
- 22) Queensland Tertiary Admissions Centre (2008) *QTAC Guide August 2008 - July 2009*, Queensland Tertiary Admissions Centre, p. 7.
- 23) Ferny Grove State High School, <http://fernysgroveshs.eq.edu.au/wcmss>
2008年11月25日取得.
- 24) Ferny Grove State High School

- (2008?) *Prospectus*, Ferny Grove State High School, p. 5.
- 25) *Ibid.*
- 26) *Ibid.*, p. 9.
- 27) *Ibid.*, pp.9-10.
- 28) *Ibid.*, pp. 10-11.
- 29) Ferny Grove State High School (2008?) *Careers*, Ferny Grove State High School.
- 30) *Ibid.*, pp. 4-9.
- 31) *Ibid.*, pp. 10-18.
- 32) *Ibid.*, pp.19-43.
- 33) *Ibid.*, pp.44-64.
- 34) Department of Education, Employment and Workplace Relations (2008) *Job Guide 08*, Department of Education, Employment and Workplace Relations.
- 35) Department of Education, Employment and Workplace Relations (n.d.) *Bullseye Career Information: School subjects you like & they can lead to*, Department of Education, Employment and Workplace Relations.
- 36) *Ibid.*, p. 21.
- 37) Queensland Tertiary Admissions Centre (2008) *Tertiary Prerequisites: QTAC 2011*, Queensland Tertiary Admissions Centre.
- 38) Department of Education, Training and the Arts, Queensland (2008) *Next Step 2008: A Report on the Destination of Year 12 Completers from 2007 in Queensland*, Department of Education, Training and the Arts, Queensland, p. 9.